

(別紙4)

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270100617
法人名	医療法人社団 回春会
事業所名	グループホーム悠々の家
所在地	松江市川原町308
自己評価作成日	平成22年1月12日
評価結果市町村受理日	平成22年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.fukushi-shimane.or.jp/html/kaigojyohou/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ワイエム
所在地	島根県出雲市今市町650
訪問調査日	平成22年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護老人保健施設悠々園が隣接しており、季節に応じた行事や各月での行事も合同で行い、社会性を高め楽しみの持てる日常生活が送れるよう支援している。桜外出、ぼたん外出、つつじ外出、ばら外出、白鳥号宍道湖遊覧、大山紅葉見物、食事外出等を行い、行事の際には家族や地域の方をはじめ、ボランティアとも数多く交流している。各月にはバイキング、誕生会、喫茶店、弁当献立等に参加をして、毎回楽しい時間が過ごせるよう支援している。

看護師が配属されており、利用者の日常的な健康管理や医療機関との連携をとっている。

又、ISOの認証を取得しており、利用者中心で個別ケアが生かされた介護サービスが提供できる様日々努めている。

積極的に地域と関わる機会を持つよう近所の幼稚園の夏祭り等にも出かけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営者、管理者、職員は、評価を実施する意義を理解しており、自己評価の際には全員での話し合いも行われるなど、事業所をより良くしていくとする積極的な姿勢が見られ、改善に向けての取り組みもなされている。評価の目的を共有化し、内容を理解し、評価を通して、より良いケア提供ができるよう、今後も継続的、積極的な取り組みを期待したい。

認知症高齢者に対し、より良いケア環境を提供したいという開設に至った経緯とも併せ、管理者、職員からは認知症のケアに対する熱意と情熱が感じられ、職員の声掛けや対応は、あくまで利用者のペースに合わせたさりげなく穏やかなものであり、利用者主体で尊厳と自己決定に配慮がなされ、自立生活に向けたケアが提供されている。

今年で4回目の外部評価であるが、明らかに事業所からは落ち着いた感じを受け、利用者や職員の笑顔や会話からは、共に過ごし支え合う関係の上に成り立つ良好な関係を窺い知ることができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

【セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に開かれた施設として、見学、訪問を随時受け入れ、利用者には家庭的な雰囲気の中で、人間らしい生活が送れるよう理念を作っている。	ホーム独自の理念であり、運営規程にも「地域の中であって、（略）、家庭的な環境のなかで…」と明記されており、ホーム内にも掲示され、更に分かり易い言葉で利用者や面会者にも伝える取り組みがなされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	第3者委員の導入により、地域の意見を聞く事が出来、ボランティア等を通じ交流を図るようになっている。	老人保健施設のバイキング食事会や行事等での交流もなされ、地元幼稚園との交流や、詩吟やフラダンス、マジックショーなどのボランティアの訪問もあり地域との交流が図られている。	サービスをホームに取り入れたり、生活をホーム内だけで提供するのではなく、積極的に外部との交流を図るとともに、積極的に地域に出掛けていく取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での問い合わせ、見学等で認知症介護の実践を説明し、理解を得ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者状況、サービス内容、事故、苦情内容、ヒヤリハット等の報告を行っている。又、母体施設悠々園との合同会議を開催し、より利用者にとって楽しめる支援が出来るよう配慮している。	利用者代表、家族代表、地元公民館長、民生委員、町内会長、行政関係者をメンバーとし開催されているものの、開催回数が凡そ2ヶ月に1回の定期開催には至っていない。	事業所の質の向上に繋げるためにも、定期的に開催し、認知症高齢者だけに限らず、地域において全ての住民が安心して暮らせる“地域福祉ネットワーク”を構築していくなどといった積極的な取り組みが望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	松江市介護保険課に、サービスに関する相談を適時行っている。又利用者に関する連絡相談を松東包括支援センターと連携している。	管理者は市の担当部署を度々訪問し、報告を兼ね協議するなど、連携をとり、サービスの質の向上を目指し取り組んでいる。	

【セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を防止する為、マニュアルを作成し、内部研修を徹底し、職員の指揮を高めている。又、リスクマネジメント委員会を通し、ヒヤリ・ハットでの気付きを元に早期に予防出来るよう努めている。	マニュアルも整備されており、研修会も開催され、身体拘束をしないケア提供への意識は高く、身体拘束は一切なされていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関してマニュアルを作成し、内部研修を徹底し、職員の意識を高めている。職員の行動指針を事業所内に掲示し、常に意識付け出来るようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している利用者はいないが、成年後見制度の冊子を回覧出来る状況を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当事業所に来所していただき、施設見学後契約書の説明を行い、納得を得た上で、サービス利用前に契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱を設置し、誰でもいつでも意見を出せるようにしている。又、重要事項説明書に市町村の苦情・相談窓口を明記している。	意見（苦情受付）箱も設置し、地元住民2名に第三者委員を委嘱、相談・苦情担当（窓口）の職員も決められ、リスクマネジメント委員会を設置し、寄せられた意見を運営に反映させていく体制が構築されている。	

【セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務日報、ミーティング、スタッフ会及び日々のトップへの報告で、施設長と職員の連携が図れるようにしている。	日々の日報、各種会議の記録等により代表者や管理者には報告がなされており、その内容を運営に反映させる仕組みが構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況、意欲等日々の報告により考慮している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護技術チェックリスト、スキル評価表を参考に、職員の年間研修計画を作成し、外部、内部研修及びOJTを充実させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域密着型サービス専門部会を同業者で設け、スタッフ交流会、管理者会を開催している。各事業所訪問、勉強会、交流会の機会にしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に出来る限り施設見学に来ていただき、ご本人に面接を行い、意向を聞いている。不安、要望を伺い、解決の手段を相談している。		

【セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にはサービス開始前に施設見学をしていただき、自宅で困っている事、不安、希望を聞き、信頼関係を構築出来るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族に面接する事で、優先にする支援を暫定ケアプランに反映し、アセスメント後、長期的ケアプランで対応出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、食器洗い、洗濯、掃除、草抜き、野菜作り等本人の出来る事を見据え、共に活動出来るよう支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会は多く、面会時に本人と共に作業を行ったり、茶話会を行ったり等、共有できる時間を大切にしている。又、受診時には必ず家族に付き添っていただくよう依頼している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人への面会は家族の了承があれば随時していただくよう説明している。又、正月、盆をはじめ、自宅への外泊、馴染みの場所での外食、美容院の利用等を推進している。	利用者のそれまでの生活歴等はアセスメントで把握され、地域とのかかわり合いを念頭に置き、それまでの地域等との関係性を重視した支援がなされている。	

【セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	調理、食器洗い、洗濯物たたみ等利用者同士が役割を認識され、活動出来ている。時々、言い争いがあるが、職員が間に立ち、調整している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された利用者のその後の経過を把握し、支援出来るよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成時、アセスメントシート、調書等及び日々直接の会話から本人、家族の生活に対する意向を聞くようにしている。	本人の思いや意向に添うように努めており、意向把握が困難な場合は、“利用者主体”に主眼を置き、家族から意見を聞いたり、日々の生活から希望や意向を把握するよう努め、職員の一方的判断とならないよう注意している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用開始時、自宅訪問などを通し、生活環境、生活状況を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	昼夜のパターンを確立する為、日中の活動を盛んにし、夜間は睡眠出来るよう援助している。出来る事をアセスメントし、日常生活に役立てている。		

【セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	包括的自立支援プログラムをアセスメントツールとし、本人、家族、職員とカンファレンスを行ったうえで、介護支援している。	3ヶ月ごと、また状態の急変時等に、本人や必要に応じて家族や関係者とも意見交換・検討を行い、“望む生活”“あるべき人生”を実現するための課題を全職員で抽出し、協議・検討がなされ介護計画が策定されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録を充実させ、毎日のミーティングを通し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な受診、外出行事等出来る限り柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の幼稚園の夏祭り等に参加し、楽しめる時間が持てるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師を中心にかかりつけ医と相談しながら、外来受診、往診等その時に応じ医療を受けている。	利用前からのかかりつけ医での医療が受けられるよう、家族等共に協力し通院介助を行ったり、訪問診療対応の医療機関を紹介したりしながら、本人や家族が納得できる受診支援を行っている。	

【セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特に意欲の状況をはじめとする精神状況、排便状況、異常の早期発見を中心に連絡しあっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の相談員と常に連携をとり、又必要に応じて面会をしながら、早期退院を図れるように援助している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を大切にし、かかりつけ医とも相談しながら支援出来るよう体制を整えている。	利用者全員に重度化や終末期に対する意向を聞き、把握がなされ、本人や家族かかりつけ医との協議の上、連携を図りながら対応していく方針が共有され支援されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年消防署の協力を得て、救急救命講習を全員が受講し、救急対応出来るよう訓練している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、併設施設と合同で防災訓練を行っており、消防署はもとより地域の方にも協力を得ている。	消防署の協力を得、隣接の老人保健施設等と共同で年に2回の防災訓練を行っており、地域の方にも参加依頼し、協力も得られている。	

【セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のマニュアルを作成し、ホールでの会話、トイレ誘導時等に注意し、プライバシーに考慮した声かけ、対応になるよう注意している。	衣服の乱れや汚れがあればそつとカバーするような対応がなされ、排泄介助の際もプライバシーが守られ、本人の「現実」を否定しないよう、全職員が意識統一を図って適切な声掛けがなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクや1日の時間の使い方に個別で対応出来るように、思い、希望を常に聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活を大切にし、活気のある生活になるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で整容出来るよう鏡をホールに設置してあり、自分で身だしなみを整える事が出来るよう援助している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、片付け等食事に関わる作業は一緒に行い、畑での収穫野菜等での話題も楽しんでいる。	食事準備や後片付けは利用者と職員が一緒に行い、食事も職員は利用者と同テーブルで食べており、世間話などをしながらの和やかな食事風景であった。	

【セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の立案した献立で、調理を行い、食事、水分摂取量の確認を行っている。食事量や嗜好等自宅での傾向を参考にし、無理強いしないように援助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを徹底して行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々のアセスメントシート、24時間シートで生活パターンをつかみ、自立に向けて援助している。	アセスメントシート、排泄に関する24時間シートで、利用者一人ひとりの排泄パターンが把握され、それに合わせさりげなく誘導するといった支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	快食快便への援助を行えるよう日々の利用者の状態を記録し、運動、食事内容、水分補給等あるいは主治医と相談する等で対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	好みにより夕方の入浴や、排便後の入浴等個々に応じた援助を行っている。	入浴に関してはあくまでも本人等の希望に合わせた入浴ケアが提供されている。 入浴を拒む利用者に対しては、言葉掛けや対応の工夫等によって一人ひとりに合わせた入浴支援がなされている。	利用者のADL低下に伴い体制の問題が出てくるとも考えられるが、入浴は大切な生活行為であるので、できる限り現状の確保と、夏場に汗をかいたときの臨時的シャワー浴等、より良い入浴の提供を期待したい。

【セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜のパターンを確立出来るよう、昼は活動的に過ごしていただき、夜間は良眠出来るよう、又午睡がとれるよう援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心にかかりつけ医と相談しながら、症状に応じた薬を確実に服用出来るよう援助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	姉妹施設と合同で行事を行い、誕生会、カラオケ、書道、ちぎり絵、喫茶、バイキング、外出行事を行っている。個々に特技を披露していただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日光浴、外気浴目的の散歩は日常的に行っている。併設施設と合同で外出行事にも毎月出かけており、希望で参加していただいている。	月に1回の行事として外出支援をはじめとし、普段より利用者個々の希望に添い、それぞれに対応している。 また、事業所の周辺を散歩するなど、日常的に外出に向けての取り組みがなされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の状態、家族の希望で、現在金銭は自己管理していただいていない。		

【セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使えるように詰所に設置している。個人宛の手紙もすぐにお手元に届くよう配慮しているが、自分で手紙を書くことが出来る人は現在おられない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにテレビコーナーを設け、好きな時にくつろぐ事が出来るよう考慮している。玄関、トイレ、浴室は家庭的な雰囲気を感じる事が出来るようにしている。	木目調で統一されており、和紙のシェード仕様の間接照明や外部採光とも併せ、柔らかに心地良い印象を受ける。照明は壁には季節に応じた利用者手作りのタペストリーなどの作品が掛けられ、季節の花も多くいけられており温かみを感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにもベランダ近くへ椅子を置き、季節を感じ取れるコーナーを作っている。音楽を聴くコーナー、テレビコーナー等居場所作りに配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはタンス、ベッドが置かれているが、使い慣れた家具を置く事が出来、個々に好みに応じた部屋作りをしている。	居室には箆箆等が置かれ、ミドルステイにも対応できるように配慮されており、本人及び家族の希望に応じ、自宅で使い慣れたものの持ち込みもできるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じ、トイレ、居室に目印をつけ、自分で出来るだけ生活出来るよう配慮している。		